

【平成19年9月1日から呼吸器腫瘍内科・呼吸器内科にて肺癌治療を受けた患者さんへ】

当研究の対象者として該当される方にお知らせ致します。対象とされることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、お手数ですが下記連絡先までご連絡ください。

【研究タイトル】

EGFR 遺伝子変異陽性局所進行非小細胞肺癌の検討

*1: EGFR 遺伝子変異とは、「EGFR」とは、がん細胞が増殖するためのスイッチのような役割を果たしているタンパク質のことで、がん細胞の表面にたくさん存在しています。この EGFR を構成する遺伝子の一部（チロシンキナーゼ部位）に変異があると、がん細胞を増殖させるスイッチが常にオンとなっているような状態となり、がん細胞が限りなく増殖してしまいます。

*2: 局所進行非小細胞肺癌とは、肺がんを細胞レベルで「小細胞がん」と「非小細胞がん」に分けた場合の非小細胞肺がんに入る肺がんで、この肺がんは、がんの進行が4期以上に区別され、手術の対象ではなく、抗がん剤治療や放射線による治療が主な治療法となります。

【研究背景・目的】

PACIFIC 試験結果により、局所進行非小細胞肺癌治療は免疫チェックポイント阻害薬による維持療法が標準治療となりつつあり、EGFR 遺伝子変異陽性局所進行非小細胞肺癌は頻度が少なく、明らかなエビデンスが得られておりません。

平成19年9月から平成30年8月までにEGFR 遺伝子変異を有する肺癌298例（I期：88例、II期：27例、III期：45例、IV期：138例）を経験し、III期肺癌45例のうち、手術33例、BSC1例、照射野広範囲による1例を除く10例を放射線治療適応症例として解析を行います。

【研究期間・取得情報】

- ・研究期間は、平成30年9月1日から平成31年4月14日
- ・対象：平成19年9月1日から平成30年8月31日までに呼吸器腫瘍内科・呼吸器内科で肺癌治療を受けた患者さん
- ・取得情報：年齢、性別、既往歴、喫煙歴、手術歴、病理組織、病期、EGFR 遺伝子変異、抗癌剤治療有無、放射線治療有無、画像所見、合併症、入院期間、転帰

【個人情報の取扱い】

研究の際の個人情報の取り扱いは、研究責任者により厳重に管理され、外部への研究発表の際には患者さん個人を特定する情報は含まないようにして行います。

研究の対象となることを望まない旨の申し出があった場合には、ただちに研究対象から除外します。なお、匿名化（データの識別のために個人を特定できる情報を番号・記号等に置き換えること）を行った後の患者さんの情報については、研究から除外できない場合もありますのでご了承下さい。

【診療記録(カルテ)等の開示について】

当院は、研究に使用しました患者さんの診療記録等について、患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の「患者情報の提供等に関する指針」に従って対応いたします。当院の診療記録等に関してのご質問や患者さんの個人情報のお問い合わせは、下記、「問い合わせ先」にてお受けいたします。

- ・ 診療記録を複写・印刷する場合の料金：枚数×20 円＋消費税

【研究組織】

研究責任者：飯塚病院 呼吸器腫瘍内科 海老 規之

【問い合わせ先】

飯塚病院 呼吸器腫瘍内科 海老 規之

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町 3-83

TEL：0948-22-3800（代表）